

真萱自治会の防災活動

～地域の安全・安心のために～



(真萱自治会ホームページは「まかや」で検索可能)

(真萱)

パークプレイスの隣接地域、多くの農地が残り古くからの住民110世帯が暮らす



真萱自治会は『住民同士が顔の見える関係を築くこと』を活動の目標とし、住民が協力し地域の活性化や災害に強い地域づくりを目指しています。

真萱自治会の運営方針

①自治会が住民にとって身近な存在となるために→

全住民に情報を開示し、問題点・課題などを共有する

- ・自治会だよりの定期発行と全世帯への配布
- ・会議録や行事案内などを全世帯へ回覧
- ・掲示版(ゴミステーションに設置)の活用

②意見や要望を発掘するために→

何でも言える環境づくり

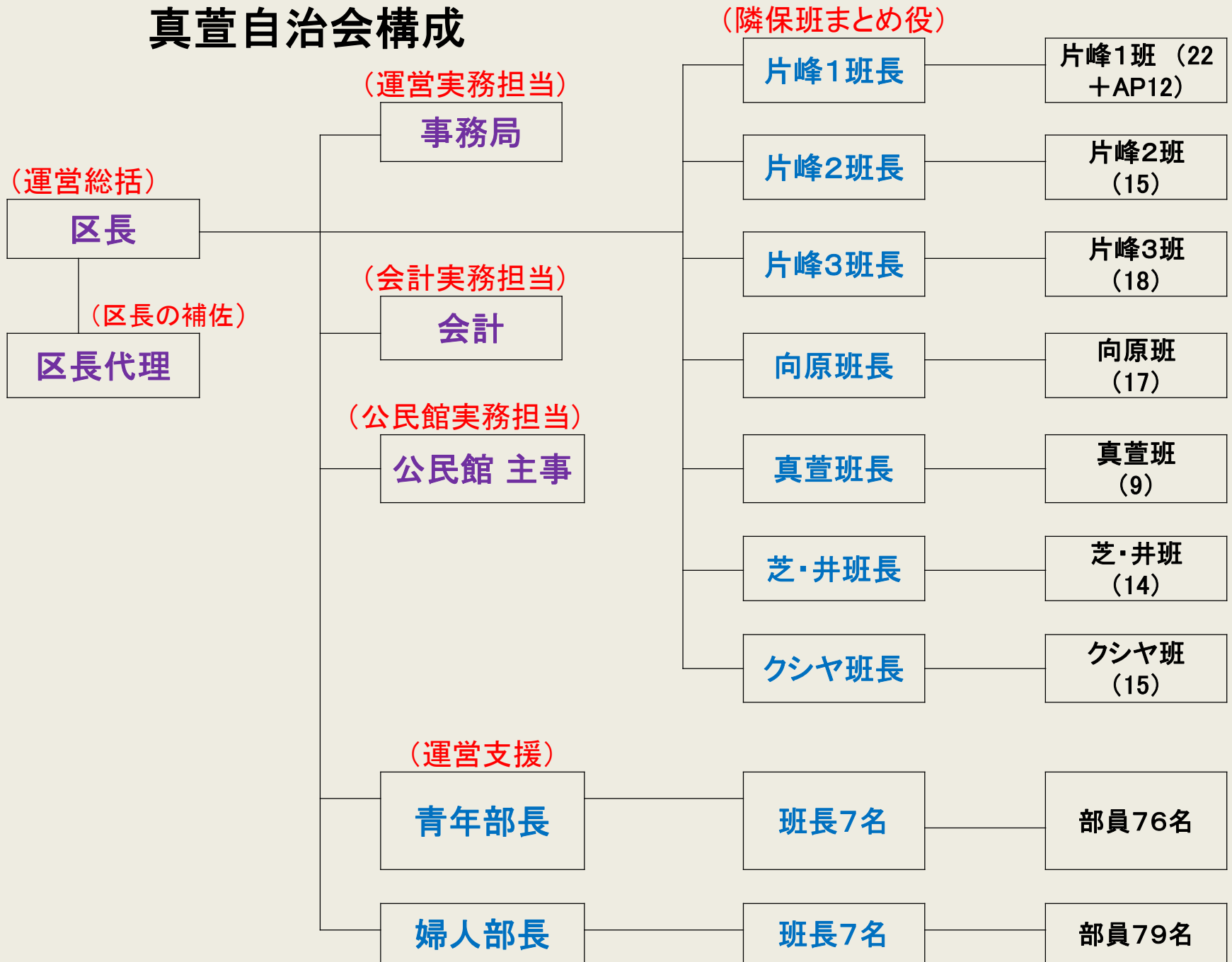
- ・執行部と隣保班員(10~15名)による定例班会議の開催

③信頼される執行部となるために→

懸案・課題への迅速な対応

- ・役員の業務分担の明確化、事務局新設による確実な対応

真萱自治会構成



業務分担

役員の担当を明確にし、確実な執行体制を確立する

役員	担当業務
区長	会務総括、真萱行事関係推進、他組織との協議調整他
区長代理	区長補佐、真萱事業関係推進(公民館周辺事業を除く)他
事務局	自治会事務、広報業務、防災活動、校区体協対応他
会計	一般会計(青年部会計含む)、特別会計
公民館主事	公民館運営管理(公民館会計)、公民館周辺事業推進
隣保班長	班内事業等の推進、班員への情報周知協力要請他
青年部長	秋の大祭、校区体協活動(男性部門)、公民館手入他
婦人部長	校区女性の会行事、体協活動(女性部門)、炊き出し訓練他

大分市の防災への取組

(自主防災組織の結成と活動支援)

- ・683/ 688自治会(99.3%)で自主防災組織を結成(25年9月)。
- ・「自主防災組織活動事業費補助金制度」による支援。

(防災士の育成)

- ・防災リーダーとして活動する「防災士」の養成を18年度から行っており、現在949名(25年2月)。
- ・大分県では防災士の数が東京都に続き全国で2番目に多く、人口比率に置いては全国1位。
- ・防災士は、「特定非営利活動法人日本防災士機構」が認証する資格であり、減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、十分な意識・知識・技能を有すると認められた人。

自主防災組織設立の意義と役割

- 大規模災害では「公助」を担う公共機関も被災します。加えて交通網の寸断、通信手段の混乱等ですぐには救助・救援が期待できません。
- 被害を最小限抑えるには住民相互による「共助」の活動が特に重要です。
- その中核となるのが地区住民で構成される「自主防災組織」です。
- 自主防災組織の役割
 - (平常時): 防災知識の普及、訓練実施、地域安全点検、資機材整備
 - (災害時): 初期消火、安否確認、救出救護、避難誘導、情報収集伝達、避難所運営
- 自主防災組織は自治会活動と緊密な関係の中で活動することが求められます。

真萱地区で発生しうる各種災害について

(防災隣組の組長会議で検討)

- ①[地震] 新耐震基準(S56年)制定以前に建てられた家屋が多いことから、揺れによる「家屋の倒壊」や「家具の転倒」が予想される。
(地震を想定した「防災訓練の実施」や「家具固定」が必要)
- ②[火災] 家屋間が比較的離れているため、延焼の可能性は小さいと思われる。
(初期消火のため「住宅用火災警報器の設置」が必要)
- ③[津波] 南海トラフ地震時に大分港で5M程度と予測されるが、真萱は海岸から10KM内陸に位置し、標高も10M以上あるため津波の到達は考え難い。
- ④[地盤の液状化] 県道沿い、清水川沿いが「大分市液状化マップ」で危険度が極めて高い地域に指定されているが、部分的である。
- ⑤[浸水] 清水川沿い、片峰地区が懸念されるが、急峻地形ではないため、家屋流出には至らないと思われる。
- ⑥[土砂災害] 住宅背後の山が低いため、大雨の際は2階に避難していれば生き埋めの可能性は小さいと思われる。



*** 真萱では「地震災害」を対象とした備え・訓練が特に必要である**

「真萱防災会」の活動内容

①防災組織の確立（平成22年）

- ・防災会規約制定、防災組織確立
- ・防災隣組の創設（22年度防災会総会で決定）

②防災意識の向上と防災情報の共有

- ・「毎月実施の隣保班会議で防災情報を周知・共有」
- ・「年度毎の計画的取組」
(23:マップ作成 24:火災警報器設置 25:心肺蘇生法、消火器取扱い)
- ・区報で防災情報を広報、防災マップの全世帯への配布

③訓練の定例化

- ・総合訓練 : 1回/年(自治会総会にあわせ実施)
- ・炊き出し訓練 : 2回/年(花見会、運動会にあわせ実施)

真萱防災会組織図

平成26年4月1日

(平常時体制)

会長
(区長、防災士)吉田房雄

副会長
(区長代理)平山郁夫
鳥居登貴子

幹事会
「総括班、情報班」の全員 「救出消火、救護、給食班」の 班長

(災害時体制)

総括班(自治会執行部)		
班長	(区長、防災士)吉田房雄	
班員	(区長代理)平山郁夫	
	(会計) 飯田昌義	
	(事務局長)伊藤康浩	
	(公民館) 片山孝之	

情報班(隣保班長)		
班長	(向原)高橋健二	
班員	(片峰1班)加藤修市	
	(片峰2班)景山忠彦	
	(片峰3班)山村宗雄	
	(クシヤ)安部博	
	(真萱)伊藤盛男	
	(芝・井頭)片山功	
	(向原)高橋健二	

救出・消火班(青年部)		
班長	(青年部長)伊藤修一	
班員	青年部各班長	—

救護班		
班長	医療関係者等から選定中	
班員		

給食班(婦人部)		
班長	(婦人部長)高橋抄子	
班員	婦人部各班長	—

「真萱防災隣組」

- ・災害時は気心の知れた隣近所が助け合えば、迅速な対応が出来ると考え「防災隣組」を創設した。
- ・災害時には組長がグループ内の安否確認→隣保班長→防災会会長に報告
会長が状況把握や迅速な対応が出来るようルール化している。

災害時の役割	平常時の役割
<ul style="list-style-type: none">・グループ員の安否確認、救出・グループ単位での避難実施・要援護者の避難の手助け	<ul style="list-style-type: none">・要援護者の状況把握と避難方法 避難経路の検討・日常的に隣近所とのコミュニケーションを深め、協力意識を育む

真萱防災隣組の構成

地区	班	構成世帯	世帯数
片峰1班 (17戸)	片1-1班	吉田(友)、楠木、伊藤、甲斐、廣瀬、玉井	6
	片1-2班	加藤(修)、吉田(房)、吉田(秀)、遠藤、加藤(清)	5
	片1-3班	河野、角田、吉田(勝)、佐々木(志)佐々木(良)、古賀	6
片峰2班 (16戸)	片2-1班	平山、鳥居(拓)、衛藤、小仲(聡)、小仲(二)	5
	片2-2班	吉田(次)、加藤(柳)、足立、景山、	4
	片2-3班	峯、渡辺、藤本、本田、	4
	片2-4班	加藤(道)、加藤(伸)、鳥居(憲)	3
片峰3班 (18戸)	片3-1班	高尾、松尾、池辺、平林(カズ子)、山村、	5
	片3-2班	井野元、佐藤、平林(マサ子)、上野、吉田(郷)、田村	6
	片3-3班	黒川、古林、安部(大)、工藤、平林(孝)	5
	片3-4班	井崎、安部(尾野)	2
クシヤ (15戸)	クシヤ1班	上木、吉田(実)、七蔵司	3
	クシヤ2班	進、山本(幸)、山本(憲)、迎田、黒木(トミ江)	5
	クシヤ3班	大津、住吉、大野、安部(博)	4
	クシヤ4班	黒木(孝)、染谷、松本、	3
芝尾・井の頭 (15戸)	井の頭1班	安部(津)、安部(美佐江)、安部(友)、安部(徹)、久富	5
	井の頭2班	安部(忠)、安部(敏)、安部(温子)、安部(伸)	4
	芝尾1班	片山(孝)、片山(文)、片山(功)	3
	芝尾2班	吉田(守)、工藤、満田、	3
真萱(8戸)	真萱1班	安藤(崇)、伊藤(文)、伊藤(康)、首藤(定)、	4
	真萱2班	伊藤(芳)、伊東(白)、伊藤(盛)、安藤(満)	4
向原 (21戸)	向原1班	高橋(忠)、高橋(寿実)、飯田、平山(夕エ子)平山(明美)	5
	向原2班	吉田(健)、柴田、住吉、	3
	向原3班	高橋(健)、高橋(享)、平山(貞)、平山(哲)平山(千)、高橋(房)	6
	向原4班	高橋(伸)、野田(敬)、宇藤(孝)、野田(昭)野田(一)平山(アツコ)、高橋(直)、高橋(俊)	8
計	25班		110

「真萱防災マップ」

既存のマップは、身近な情報が記載されていないため、身近で防災や生活に役立つマップを作成した。



- 毎月の隣保班会議（公民館清掃後）で、防災情報を収集、その結果をマップとしてまとめた。
- マップには、災害に関する身近な情報（15項目）を掲載、全世帯に配布した。
- 地図には世帯名を書き込み、住民のコミュニケーションを深めるツールとして使えるように配慮した。

マップ表示部



(平常時)

ゼンリン地図代わりに利用

(災害時)

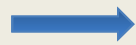
被災状況を書き込み、情報の共有と確実な対応

凡例(15項目)

表示	項目
	防災隣組 (赤字はグループ長で避難旗 保管者)
	要援護者宅
	避難所
	避難経路
	土砂崩れ懸念箇所(人家対象)
	浸水懸念箇所
	消火栓
	防火水槽
	危険箇所(ブロック塀、水路)
	排水路の手入れが必要な箇所
	医療機関
	AED保有施設
	災害時市民開放井戸(雑用水)
	資機材備蓄倉庫
	外灯

マップ表示内容(15項目)

表示	項目	説明
	防災隣組 (赤字はグループ長で避難旗 保管者)	(災害時役割) ・グループ員の安否確認、救出 ・要援護者の避難手助け ・グループ単位での避難
	要援護者宅	高齢者、病床者、障害者世帯
	避難所	1次避難箇所
	避難経路	安全な避難経路
	土砂崩れ懸念箇所(人家対象)	市の指定箇所又は過去の被害箇所
	浸水懸念箇所	河川、水路氾濫が過去にあった範囲
	消火栓	消火栓の設置箇所
	防火水槽	防火水槽の設置箇所
	危険箇所(ブロック塀、水路)	避難時に倒壊、落ち込み等が懸念される箇所
	排水路の手入れが必要な箇所	水が溢れ水害の原因になる箇所
	医療機関	災害時利用できる病院等
	AED 保有施設	AED の常設箇所
	災害時市民開放井戸(雑用水)	災害時使用可能な井戸(水質検査済)
	資機材備蓄倉庫	防災器具の保管箇所
	外灯	外灯位置



緊急連絡先

緊急連絡先

(緊急時)

警察 (緊急の場合は110番)	中央警察署	533-2131
	東警察署	527-2131
消防署 (緊急の場合は119番)	中央消防署	532-2108
	東消防署	527-2721
休日・夜間の急病	当番医テレホン案内	534-4488

(病院)

大分岡病院	522-3131
松岡メディカル	524-6777
たまい小児科	524-6656
伊藤整形外科	547-8841
かつた内科胃腸科	524-6888
小野歯科	520-3388

(行政)

大分市役所 (代表)	534-6111
鶴崎支所	527-2111
明野出張所	558-1255
防災・危機管理課 (防災担当)	537-5664
道路維持課 (道路の決壊)	537-5674
河川課 (河川決壊、がけ崩れ)	537-5632
生産基盤課 (用水路の決壊)	537-5629
水道局総務課 (水道管の破裂)	538-2403

(わが家の防災メモ)

避難所	真萱公民館 (1次)	松岡小学校 (2次)	
緊急連絡先			
家族の名前	学校・勤務先	電話番号	携帯電話
〇		097	

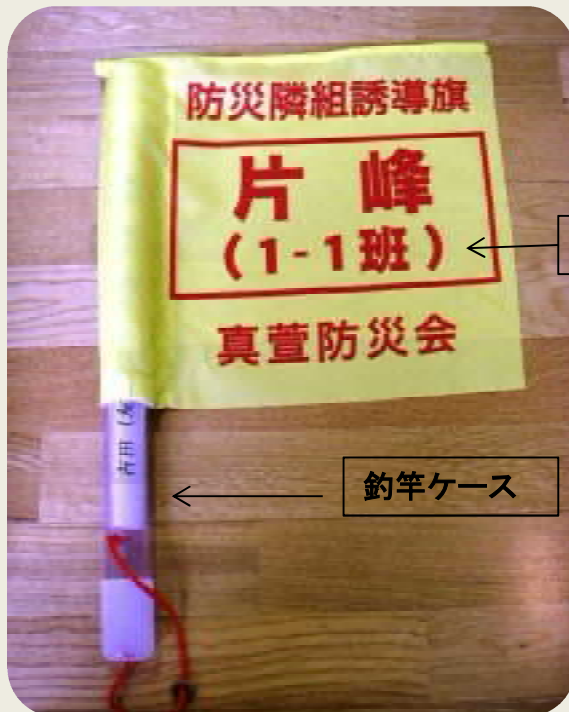
真萱の防災訓練(全体対象分)実績

年度	年月日	種別(参加者数)	内容
21	22,2,28	総合訓練(50)	消火訓練(業者)、地震体験(体験車)、応急救護訓練(女性消防団員)、防災講話(消防署)
22	22,4,11	炊出訓練(30)	花見会料理づくり
	22,10,3	炊出訓練(15)	運動会昼食づくり
	23,3,20	総合訓練(110)	避難訓練、健康測定(健康推進員)、火災警報器説明(安部商店)、防災講話(防災士)
23	23,9,25	炊出訓練(30)	真萱防災会総会
	24,3,25	総合訓練(80)	避難訓練、健康測定(健康推進員)、地震体験(体験車) 防災講演(県防災活動支援センター)
24	24,4,8	炊出訓練(30)	花見会料理づくり
	24,9,23	炊出訓練(40)	花見会料理づくり
	25,3,10	総合訓練(110)	避難訓練、健康測定(健康推進員)、応急救護法(防災士) 防災講話(ビデオ)、消火訓練(業者)
25	25,4,7	炊出訓練(40)	花見会料理づくり
	25,4,21	市一斉訓練(50)	避難訓練、防災講話(防災士)、心肺蘇生法(女性消防団員)、天ぷら油消火法(消防署)
	25,9,22	炊出訓練(30)	運動会昼食づくり

総合訓練(年1回)

- ・総合訓練を毎年、自治会の総会開催日に実施している。
(避難訓練、防災講和、消火訓練、地震体験、心肺蘇生、救出訓練等)
- ・健康推進員による体脂肪測定、血管年齢測定も毎年実施しているが大変好評である。

避難誘導旗(組長玄関保管)



収納可

釣竿ケース

避難風景



消火訓練



(感想)

戸惑う人もいた
「訓練は本番のごとく、本番は
訓練のごとく」
体で覚えることが大事

地震体験



机・椅子が固定されているので
家具の飛散等はないが、それ
でも震度7、関東大震災の揺れ
には声を上げて驚いていた

校区健康推進員による体脂肪測定



松岡校区の健康推進員の協力で実施、健康推進員の活動の場づくりにもなるし、防災会との協力体制づくりにも役立っている

炊き出し訓練(婦人部)

- ・婦人部の30～40名が炊出しを行い、炊出し品は「春の花見」や「秋の運動会」の昼食に提供している。
- ・訓練がコミュニケーションを深める場となっており、今では地域の絆を強めるためにも、その継続を望む声が多くなっている。



炊き出し品による

「春の花見会風景」



「運動会昼食風景」



終わりに

- 自治会は、そこに住む人たちがより安全で、住み心地の良い生活を送るために結成されたもので、その活動を具現化したもののひとつが、防災会の活動と捉えています。
- 人と人との関係が薄くなっていく今、住民同士の顔の見える関係を育むためにも、自治会活動は欠かせないと考えています。



- 真萱自治会は、今後も全住民が情報を共有し、お互いの顔が見える活動を目指していきます。

松岡校区防災会(仮称)の3ヵ年活動計画
(防災士が中心となった校区防災会を26年度中に創設予定)

項目	活動内容
防災意識向上・事前対策推進	<ul style="list-style-type: none">①防災広報紙の発行②危険個所の調査③校区防災マップの作成④防災講演会の実施⑤校区防災訓練の実施⑥家具固定状況調査と固定の推進⑦救出機材(重機類)所有者の把握
災害対応力の強化	<ul style="list-style-type: none">①重点取組災害種別の選定②校区防災組織の在り方検討③校区避難所運営マニュアル作成④避難所運営訓練の実施
自主防災会の支援	<ul style="list-style-type: none">①校区共有教材の作成②自主防災会訓練へ校区防災士の参加③各自主防災会組織の在り方検討

活性化のための「防災士の活動の場づくり」と「防災士の役割」

- ①防災会を住民に認知してもらうため、防災士を自治会役員に起用するよう働きかけ、自治会の会議や自治会広報紙を通じて防災知識の普及や防災活動を推進することが、防災士の活動の場づくりに有効である。
- ②防災会組織は災害時の対応を考え、自治会と表裏一体の関係（①と②）が多いと思われるが、防災士が中心的役割を果たすことにより自治会役員の交代があっても、活動は停滞することなく継続できる。

結成方法	①防災会＝自治会	②自治会の内部組織	③自治会とは別組織
説明	防災会役員を自治会役員に起用	自治会の一部として防災部門を設置	独立した防災組織をつくる
特質	組織づくりが容易で、継続しやすい		下地がないため組織づくりが難しい
	組織の仕組みがわかりやすい	経験が蓄積され専門性が高まる 活動の独自性を発揮しやすい	
	自治会役員の交代によって活動方針や熱意が変わる (防災士が中心的役割を果たすことにより、役員交代があっても活動が継続される)		同一地域に二人の長がいて、混乱や対立が起こりやすい

終わりに

防災士は社会の減災・防災力向上のための知識・技能を有すると認められた人です。

- ①防災士には誰かがしてくれるのではなく、自らが行動し住民をリードする姿勢が求められています。
- ②自治会と協力した防災活動は、南海トラフ地震が懸念される今、また地域の絆を強める手段としても欠かせない活動と考えています。